

ナマステ



特定非営利活動法人

自然文化誌研究会 会報誌

147 号

2022 年 8 月 31 日発行号

『こすげ冒険学校』を開催しました！！

参加者 15 名を迎え、6 泊 7 日の夏のこすげ冒険学校を開催しました。今年度は過去最高クラスの天気に恵まれ、毎日川遊びをして過ごすことができました。



<参加者からの感想>

僕の 1 番の思い出は沢登りができたことです！

2 時間かけて第二えんていまで行けたことが嬉しかったです。

いろんな工作も体験できて、たくさん作品を持ち帰りました！

キャンドルを忘れたことは後悔…

いろいろなことができ、さらに「やりたい！」ということや企画をしてくれて天候次第で実行してくれたことが嬉しかったです！

ありがとうございました！ (寺井健人くん 小 4)

小菅村は最高だ！

一瞬の 7 日間、思いだすこと。

小集団・ショイコ・川遊び・沢登り・滝に打たれる・夜のカジカつき・まき割り・ハンモック・ブランコ・人狼・炭焼き・豚丼とカレー・ミルクココア・ドーナツ作り・水中ずもう・キャップ投げ野球・カエル・虫とり・五右衛門風呂とドラム缶風呂・新しいいすど机・友達とスタッフ・小菅の湯

また行きたい！！

(森下守くん 小 6)

私は今回のキャンプで、川遊びや工作、炭焼きの手伝いやお風呂わかし、キャンプ場の外でナイトハイクや滝を見に行ったり星を見に行ったり、色々なことを体験しました。中でも特に面白かったのは、水をかけ合った水遊びと工作です。

水遊びでは、スタッフさんと勝負をしたり、どうやったら強く水をかけられるか村長さんに教わったりしました。教わった通り、水を入れたバケツをふりおろすようにかけたら、スタッフさんが「痛い!」と叫んだので、うまくいったと思ってうれしくなりました。工作では、竹でとうろうを作ったり紙ねんどと卵のカラに色を塗ったもので猫を作ったりしました。

他にも、キャンプ場で食べたご飯はすごくおいしかったです！来年も再来年も来たいです！！（関仁葉さん 小4）

「あっ見つけた!」
僕がずっと楽しみにしていたカジカつきで水に入った瞬間アイツと目があった。

僕はモリでグサッと刺した。

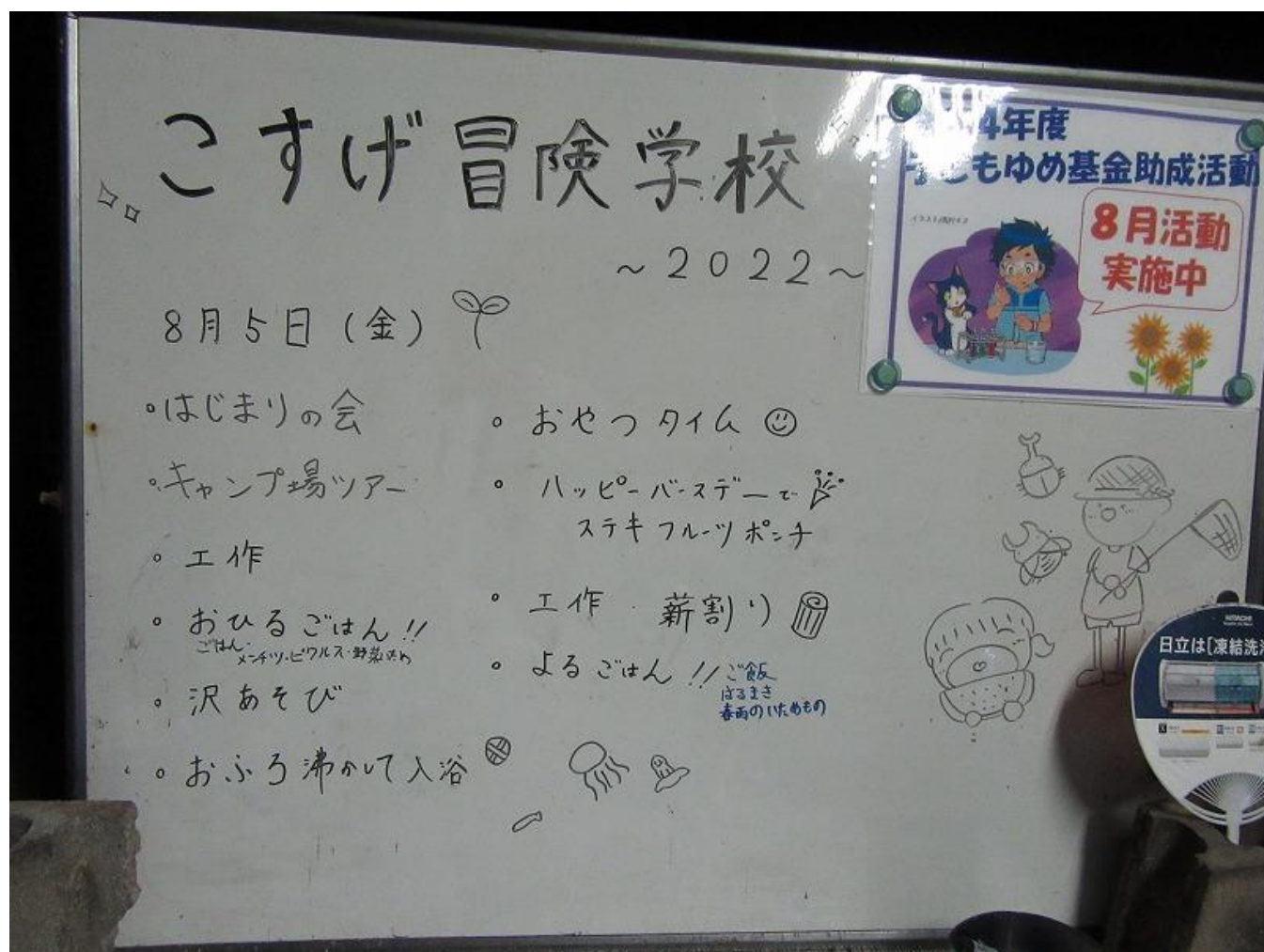
気がついたらあっという間に7匹も捕まえていた。

みんなからカジカを探すのは難しいといわれていたが普通に見つけられた。カジカは味噌が身体についたような色つきでムツゴロウの体をしていて、正面から見るとカエルのような顔。目がボコッと出ていた。図鑑でみていたのとだいぶ違って驚いた。さわったヌメツとした感覚が忘れられない。またみんなと冒険学校で遊びたいです。

（井上敬生くん 小4）

魚を見たり、さわのぼりでとびこみをしたりいろいろな活動するのがとても楽しかったです。

ご飯やおやつやピザがおいしかったです。（安倍健くん 小4）



＜スタッフの感想＞

福嶋亜依さん（東京学芸大学 1 回生）

全ての時間が楽しかったです。純粋に楽しいという気持ちが溢れ出て、帰ってから思い出話が止まりませんでした。

私は主に工作班として携わらせていただきましたが、沢山の子どもたちが粘土や竹、金属などの素材に触れ合っていて楽しそうに、思うがままに工作している姿を見てとても嬉しくなりました。それぞれのこだわりを持って作った作品はどれも素晴らしかったです。子供たちと、ここはどうしたら上手くいくか、もっとかっこよくなるかを一緒に考えてながら楽しく工作することが出来ました。

ナイトハイクもほぼフル参加でき、小菅の様々な場所を子供たちと探検できたのも良い思い出になりました。冬のヘリポートからの星も見たいです。

7月のキャンプももちろん楽しかったですが、今回のキャンプでは更に沢山の人たちとお話したり関わり合いながら過ごすことができたこと、本当に本当に楽しかったです！！ありがとうございました



豊島大史さん（東京学芸大学 2 回生）

今回、冒険学校に参加して、子どもとの関わり方と新たな課題に気づけたキャンプになりました。ゴールデンウィークが初めてキャンプでしたが、その時はどこかお客さまのような気分でした。仕事や子どもたちとの関わり方など、どうしたら良いのか分からず、戸惑っていた記憶があります。そこで悔しさを糧にしながら、農学校や校外活動を経て、冒険学校に臨みました。子どもたちと仲良くなるためには、子どもたちの話すことに興味を持つことだと思いました。子ども一人ひとり好きなことや関心のある分野があり、私はそれを聞くことがとても好きです。今回は、昆虫や星座、国、結晶、ライフハックまで、子どもたちからたくさん学びました。私にとって初耳なことばかりで、同じキャンプ場なのに、毎回新鮮さを感じることができました。子ども同士で協力し合ってる場面もあり、すごく感動しました。そのような場面が増やせるように、今後のキャンプで工夫していきたいです。



森岡小晴さん（東京学芸大学 3 回生）

今回も、スタッフでありながら、私自身が子供たちと一緒に新たなことを探しては全力で挑戦していく学びの多い本当に楽しい時間でした。周りに広がる 木々、植物、川といった自然、竹、糸、ノコギリなど、工作道具が贅沢に揃っている環境で、何ができるかなと考え試行錯誤する楽しさ、普段なら時間の経ちを気にしながら過ごす 1 日を、何も気にせず自由に使える喜び。都内の小学校を見ているからこそ思う、これらのことの難しさと贅沢さ。この環境を作り上げた、黒ちゃん、しずくさん、はるちゃん、鈴木さん、みどりさん、みやんさん…沢山の小菅における先輩の方から、この環境を作るにあたっての経緯や、大切にしていることをもっとお話をお聞きしたいと思いました。

（既に沢山聞かせてもらっていますが！）また、私もこの空間をこれからも継承していきたいし、私が教員になった時にも大切にしたいし、子供に是非感じてほしいと、改めて思った冒険学校でした。



小園美優さん（東京学芸大学 4 回生）

笛を吹いてみた経験が記憶に残っている。簡単そうに見えて技術が必要なことに気づき、世界が広がった感じがした。冒険学校は、それぞれが好きにやっているからこそ、それぞれの世界を少し覗けたような気がした。そういう幅の広さも、冒険学校の大きな魅力だと感じている。



2022 年度こすげ冒険学校後記

こすげ冒険学校村長 雫永法（しずくながのり）

今年の冒険学校は何と恵まれていただろうかと思う。活動内容の充実ぶりについては参加した子どもたちや学生スタッフの感想からも分かる通りだ。ここでは別の観点で報告できればと考えている。

まずは子どもたちの様子についてお伝えしたい。今年も新たなメンバーが加わったがどの子も非常に好奇心旺盛で、初めて過ごすキャンプ場で出会うあらゆる物事に興味を持ち自分で試してみなければ気が済まない面々が集っていた。良い意味で“ギラギラ”していた。初日、新メンバーだけの様子を見ているとかなりハイペースな活動で、このままいくと一週間もたないのではないかと心配になる程だった。

しかしもう一方で、冒険学校経験者が何人も参加していて冒険学校の生活リズムをリードしてくれていた。久しぶりのフィールドに身を置き、自然いっぱいの空気を懐かしむように味わい、キャンプ場の様子をたしかめながら、ゆったりと活動していた。これからのキャンプ生活をじっくり味わっていかうとでもいうような余裕のある雰囲気を感じられた。この経験者たちの行動は理にあっていて経験に裏打ちされた根拠があるため新メンバーたちも次第に真似たり後について回るようになっていたりして、自然にキャンプの生活リズムや雰囲気が出来上がっていった。結果、子どもたち同士の関係も日を追うごとにバランスよく深まっていった。そして、子どもたちはその関係性の中で次から次へと楽しみや喜びを見つけ味わっていた。

次に学生スタッフについてお伝えしたい。いまだ続くコロナ禍にあってもそれぞれが備え、想いをもって参加してくれた。

今年は7月初旬に東京学芸大学『サークルちえのわ』の学生を中心に他大の学生も小菅村に集まり、事前スタッフ研修会を行うことができた。沢遊びや沢登りをしつつフィールド探索をして土地勘を養ったり、薪割りや五右衛門・ドラム缶風呂焚き等の技術を身に付けたり、このフィールド内で考えられる危険の予測や対策といった安全管理についても学ぶ機会を持つことができた。学生同士の信頼関係も深まり、互いに安心して支え合うことのできる状態で冒険学校本番を迎えることが出来たということが何よりも心強かった。このような積み重ねがあったからこそ学生が子どもたちとの関係を豊かにつくっていくことが出来たと思う。さらに事前準備や後日帰り（事後片付け）に参加してくれた人が何人もいたことは本当に嬉しかった。怒涛のようなキャンプ期間を過ごした後の静けさを充実感と共に味わう…という格別の時間を過ごすことが出来たことも嬉しかった。今年の冒険学校も学生たちの情熱や人知れない助力に支えられ無事に実施することが出来たと感じる。感謝したい。

「冒険学校 まふゆのキャンプ」 12.24~26(2泊3日)

毎年恒例の「冒険学校まふゆのキャンプ」を体験して、暖かいお正月を迎えませんか？

小菅村ではお正月の準備がもうはじまる頃です。日中は、村内を自由に動き、村の中でもちょっと面白いところに行きましょう。焚火・薪割り・ナイトハイク・星空観察・バードウォッチング・滝探検・・・その場で思いつく限り、いっぱい遊んで、食べて、寝る。そんなキャンプです。個性あふれるスタッフがみなさんの参加を待ってます！！

日程：12月24日（土）～26日（月）

場所：清水バンガロー（小菅村のいつものキャンプ場）

宿泊：一人用テント・ログハウス・野宿など

対象：小学校3年生～中学校3年生

定員：15名（先着順です）

参加費：会員¥26,000 非会員¥28,000

（奥多摩駅からの交通費・食費・宿泊費・保険代などを含む）

申込み：ハガキ・もしくはE-mailに住所・氏名・年齢（学年）・

性別・電話番号を記入の上、事務局まで参加をお伝えください。



＜国土緑化推進機構 令和4年度「緑と水の森林ファンド」助成事業です＞

沖縄や北海道より気分的に近い島・台湾（その4） 佐伯 順弘（岐阜県）

Travel planning

DAY1 5th JAN NGO→TPE
 DAY2 6th JAN TPE→KHH
 DAY3 7th JAN KHH
 DAY4 8th JAN KHH ★
 DAY5 9th JAN KHH→TPE→NGO★

DAY4 (8JAN2017) 高雄

0800 起床。0845 朝食。



これは台湾の朝食ビュッフェなのだが、ややイングリッシュブレックファストに寄せている。だからどうというわけではないのだが、台湾なのになぜこの朝食なのかという疑問に対しての説明に過ぎない。このホテルは高雄に来た時の定宿なので、どんなメニューが並んでいるかはよく把握している。中華、洋食、なんなら和食さえある。多岐に渡っているのである。そのおかげで、今日はイギリスに寄せる、今日は台湾に寄せるといった統一感を大切に朝食を組み立てている。ただそれだけのこと。

正月休みを利用した海外旅行も今日を含めてあと2日。最終日は帰国のための移動日なので実質今日が活動最終日だ。かといって、必ず行っておかねばならない場所、やっておかねばならないことといった「ねばならないこと」など、そうはない。いつもように、なんとなくの流れを構築しつつ、「無計画行き当たりばったり」を基本として今日も活動して行こうと決意する。計画をこなすだけなど旅とは呼ばないのだ。

0945 ホテル発。今日もいい天気だ。旅は足の向くまま、気の向くまま。自然と近くのMRT 鹽埕埔駅に向かっていった。路線図を見ると、「西仔灣」の文字が。決まりだ。MRTで西仔湾駅までいく。

1030 西仔湾站着。站を出て歩くと程無く、フェリー乗り場に到着。高雄の交通カードで支払い。

フェリーの出航間隔はそれほど長くない。すぐ乗り込んで、すぐ出発。10分余りで到着する船の旅。本当にちょっとした移動なのだけれど、気持ちいい。短い時間でも心

が解放されるのを感じる。不思議なものだ。幼少の頃は、とにかく乗り物酔いがひどかった。父が運転する自家用車はもとより、タクシーもだめだった。バスに至っては見ただけで気持ち悪くなり、乗り込んであの日本のバス特有の臭いを嗅ぐと、喉の辺りに消化中の食糧が食道を酸で焼きながらせりあがってくるのを感じたものだ。自動車教習所のコースを自分で運転するときでさえ気持ち悪くなり、コース上で止めさせてもらい、深呼吸をしてから再開したくらいだ。もちろん、船は小舟からフェリー位の大きな船まで基本的にダメだった。その後、カヌー、ゴムボート、自転車、バイクなど、自分で完全にコントロールして攻めていく乗り物については酔わないことを発見。気持ち悪くなっていた乗用車も峠を攻めるようになってからは酔うなどの無様な姿はさらしていない。今では、高速自動車道の運転などぬくて眠くなってしまうくらいだ。だから、岐阜小菅間の移動時間は調子がいい時と悪い時では2時間以上の差がある。眠くなると途中のSAで仮眠をとるからだ。今回の旅もだが、海外旅行では外せない飛行機はどうかというと、全く酔わない。当然である。なぜか。それは、客席に座っているものの、自分が操縦しているイメージが完璧だからである。機体チェック、管制官とのやり取り、滑走路に出てから、「クリアード・フォー・テイクオフ」の指示を確認し、スロットルを開き、離陸速度まで加速し、操縦かんを引く。車輪の接地感がなくなり、完全に空中にいることを確認する。更に高度を増し、緩やかに旋回し、飛行高度に達する。酔っている暇などないのである。何事も主体的に生きていけば、大丈夫なのである。

そんなわけで、フェリーの話である。フェリーは操縦イメージも何もないし、若干揺れるものの、のんびりとわずかな船旅を楽しめる。時折混ざるガソリンの臭いも感知しつつ、気持ちのいい海風を体いっぱいを受けて、海の上を移動する。これもまた酔うという現象とは無縁だ。

さらに考えてみると、臭いが駄目なのかもしれない。日本のバスは臭いが、海外のバスは臭くないので酔わない。飛行機は臭くない。おっと、そんな自分の乗り物酔いに関する考察などどうでもよかった。例によって、0.01秒程度の考察なので生きる時間のロスなどは考えなくともよいのだが、やはり時間は正しく使いたい。僅かだからと言って、この大切な旅の時間をあまりにも無駄なことに使う訳にはいかない。0.0001秒の損失もなく、この旅を、空白の時間を楽しみたいのだ。



さて、乗っているのはフェリーである。元々半島状態で陸続きであったところを切って、島になったところをフェリーと地下隧道でつないでいる。このフェリーは地域住民の足として気軽な交通手段としてだけではなく、観光地化している島へ多くの客を運ぶ輸送手段となっている。そんな移動手段だか、格安で気分を変えてくれるなかなかすぐれた乗り物である。

1045 旗津着。MRT の駅に着いてから 15 分しか経っていないが、島である旗津に到着した。観光地はいくつかあるが、すべて行ったことがあるので、特に目的地はない。足の向くまま歩き出した。気が付くと西仔湾に来ていた。



やっぱ、海なし県に住んでいると海が見たいよなぁと思いつつ、あたたかい冬の海を見ながら砂浜を歩いた。

1150 旗後砲台。それから、砲台に登った。由来などは全く覚えていない。1800 年代後半に作られたらしいのだが、どんな戦いがあったとか、そもそも使われたのかさえ知らない。ただ、これだけの厚さのコンクリートならかなりの耐久力があつただろうとか、艦砲射撃なら耐えら



れないだろうとか、これまたどうでもいいことを考えていた。その後、ぷらぷらと砲台を降り、レストラン街で花枝丸 15NT\$ を食す。これは、イカ団子である。花枝のイメージからげそ天のようなものかと思われる。安くてうまい。フェリーで戻ってきたところ、「元福」の前を通りかかった。

日本人学校時代に生徒がここの焼肉飯は旨いからと絶賛するものだから、何回か来ている食堂である。焼肉弁当を食す。70NT\$。



ご飯の上に焼肉や野菜が乗っているもの。旨い、旨いよ。しかし、なぜ彼があれほど激賞していたのかは理解できない。

1330 ホテル最寄りの駅まで戻って、ホテルに帰る途中、よくいく小籠包屋の前を通った。いや、これは食べておくべきだと判断した。



小籠包屋「永和」の小籠包 1 蒸籠 60NT\$

ホテルに戻って、シャワーを浴びて、少し寝る。食いたいものを食いたいただけ食って寝る。デブの王道である。

1600 家樂福 Carrefour へ出かける。基本的に「お土産は無事故でいいのよ、お兄さん。」派なので、土産など買わないのだが、魔がさして買うこととなった。アーモンドクッキー 75 を 3 箱で 225NT\$。それから C-POP の CD を買ってしまった。こちらの歌手はアイドルでも歌が上手い。388+378 で 766NT\$。これで買い物も終わった。ミッションらしいミッションは終了である。ホテルに戻って、旅メモ・会計メモを書く。残りの軍資金でどれだけ飲めるか計算。

2000 頃 ホテル発。若者が集まる場所らしい「新堀江」近くで夕食。ラーメンと野菜。

2100 よく通ったライブハウスに行く。

C-POP も歌うが、スタンダードも一般的に言われるポップスも歌う。複数で行っても音が大きい話せない。一人で行っても十分楽しいが、なぜかグループで来て、音楽より大きい声で話す方々が多い。858NT\$。

2230 心の救護所であった PUB にいく。少しずつスタッフの顔ぶれは変わっているが、笑顔は変わらない。一人で来て、中国語や英語が拙くても構ってくれる。誰かと来る機会があれば、ぜひ連れてきたい。830NT\$。0 時頃帰投。

DAY5 (9JAN2017) 高雄→台北→名古屋

0510 アラームを鳴らさず起床。今日については日程的にぎりぎり、何かトラブルがあって乗り遅れば、かなりまずいことになるため、完全に眠ってはいなかったのだろう。吐き気あり。シャワー、パッキング、部屋を簡単に片づける。立つ鳥、跡を濁さず、来た時より美しく。ぐちゃぐちゃにしたまま部屋を後にするなど、耐えられない。完璧にベッドメイキングをする必要などない。しかし、軽く整えるくらいはしているのではないかな。急いでいる割にはそういうところにこだわるのが悪い癖だと十分自覚しているが、それも自分の生き方である。

0630 朝食。軽めに済ます。すぐチェックアウト。

0640 食べ始めてから、ホテル出るまで 10 分。

0646 MRT 鹽埕埔站発。気温はやや低く、列車の中もやや寒い。0716 THSR 左營站着。日本の新幹線の如く、慣れた手順で桃園站までの切符を買う。左營→桃園 1290NT\$。

0720 高速鉄道発着ホームに立つ。0735 発 0909 着の 0610 号を利用する。定刻出発到着。

0913 空港行きバス 30NT\$。完璧なタイミング。

0929 Terminal-1 到着。0937 check-in 完了。

ここまでくれば安心である。一般的に国際線のチェックインは出発の 2 時間前と言われる。航空会社によって違うが、2 時間前にカウンターにいれば、おそらく大丈夫だ。もちろん、確実ではない。以前 2 時間前に着いたら、既にカウンター前には長蛇の列。空港は混んでいる保安検査、出国審査も時間がかかるに違いない。時間は確実に進む。かなり焦ったことを憶えている。だが、それはめったにない。最近はチェックインマシーンなども装備されており、手続きはかなり早い。(若干味気ないが。) そんなわけで、それほど急ぐ必要はなかったかもしれないが、勝手な楽観的推測により間抜けにも乗り遅れ等ということにでもなれば、始業時に遅れ、次回の旅に出にくくなることは必定である。これら諸般の事情を鑑みて、今回はこのプランを採用したのである。ちなみに出発時刻は正午である。さて、チェックインを終え、空港の混雑具合を確かめれば、後はのんびりと空港を楽しむだけである。とはいえ、2 時間ちょっとなどあっという間に過ぎてしまう。

1030 出国審査。1049 GATE-B7。台北の桃園国際空港は決して狭いわけではないので、早めにゲートまでの距離を確認しておく必要がある。

1125 なんかわらんが、待合エリアでパスポートチェックがあった。まだ、搭乗のアナウンスはない。

1145 無事搭乗開始。40k の座席。窓側。

1220 しまった。いつの間にか飛び立っていた。操縦のイメージをもつたの御託を並べようと結局はこんなものである。着席して安心したせいか眠っていたのだ。大した後悔ではない。

1240 早くも機内食が配られる。昼時だからそんなもんか。鶏肉飯。台湾の優しい味わいである。後はビールを飲みながら、機内エンタメを楽しむ。日本未公開の洋画や日本ではまずやらない中華系の映画が楽しめるのがいい。今回は、リウ・イーフェイの出ている映画「NEVER GONE」が良かった。なかなかのこっぴすかしさと「はあ？」と言いたくなるエンディングが絶妙である。DVD とか BD は出ていないようだ。ネットでも見られないみたいだ。残念。



もう 1 本は、機内誌のガイドを見て、見始めたら、もう着陸ということでみられなかった作品。「SOUL MATE」直感がこれを観ろ！といていたが、間に合わなかった。(後で調べたら、別ルートで知った「少年の君」と同じスタッフ・キャストが関わっていることが発覚。また、セットで DVD&BD も発売されているらしい。)



飛行機での過ごし方は、食べる、飲む、観る、寝る、出すのくりかえしなので案外忙しい。今回のように短いフライトはあっという間だ。

1530 頃 名古屋の地に降り立つ。家に戻るまでが遠足なので完全に終わったわけではないが、これで、2017 年のちょっとした正月旅はほぼ終わり。大切な街をふらふらするだけで、気持ちが整う。明日から頑張る気持ちになれる。旅がある限り、何があろうとも絶望することはない。常に新しいエネルギーで心を満たすことができる。既に、夏の旅計画は構想が固まりつつある。

2017 正月旅

沖縄や北海道より気分的に近い島・台湾 (完)

宮本茶園 宮本透

野良仕事に専念して初めての夏を迎えました。昨年は刈り取れず長雨にあたった穂から発芽した麦を燃やし、ジャガイモやサトイモが雑草に覆われて収穫できなかったという失態がありましたが、植え付け・管理作業・収穫等適切な時期にできるようになってきました。自分にできる事とできない事を考えながら野良仕事する習慣が身に付いたようで、あれもこれもやりたいという欲張りな気持ちが無くなりました。

心身が年齢相応の老人になったのか、アニメ鑑賞の趣味が変わりました。晴耕雨ノートの動画鑑賞では、韓国の映画・ドラマをよく観るようになりました。最近印象に残った作品は「イモン(異夢)」、「金子文子と朴烈」、「タクシー運転手」、「1987」、「明日へ」です。日本の植民地支配への抵抗、軍事独裁政権への抵抗、悪徳資本家への抵抗、韓国の民主主義が労働者・市民の血を流した闘いで勝ち取られた歴史をそれぞれに描いた作品で、主人公が仲間を信頼し団結して闘う姿に勇気をもらっています。佐野川にこもっているのが昨今の世相はネットニュースで知りうるのみですが、腐りきった政治家が権力を握る日本の行く末を心配しています。

・5年目の佐野川茶

2018年10月に誕生した藤野茶業部佐野川茶、藤野茶業部員は皆高齢アナログ人間で情報発信が苦手ですがJAグループ神奈川がテレビ神奈川番組「かながわ旬菜ナビ」で佐野川茶を紹介してくださいました。私はテレビを持っていないので観た事がないのですが千葉県に住む娘に報告すると、神奈川県内の農家や農産物を紹介するお気に入りの番組だそうです。ロケ当日は旬菜キャッチャーの大野幸さんに上岩茶園を案内しながら茶摘みをしてもらい、摘んだ葉で手もみ茶作りを体験していただきました。私は手もみ茶体験を担当したのですがテレビ出演は人生初めての経験、学生時代教育実習で研究授業をした時のような緊張感を久し振りに味わいました。「新茶の季節！かながわのお茶を召し上がれ♡」と編集されて5月15日に放送された番組は藤野でも観ている人が多いようで、放送後しばらくは「宮本さんたち、テレビに出ていたね！」と声を掛けられました。



①



②

佐野川茶には藤野茶業部煎茶 2 製品と宮本茶園謹製煎茶があり、私は有機栽培した葉を個人で製品加工し100g1500円で販売していました。23号でお伝えした

事がありますが、1500円の煎茶は価格に見合った味でなければお客様は満足されません。昨年度茶業部会で「宮本茶園が1500円で個人販売している煎茶は今年で終わりにします。来年は藤野茶業部各茶園で一番品質の良い茶葉で製造しませんか」と提案、了承されました。JA 県央愛川荒茶工場で加工される生葉は出荷時に1～10等級に分類されます。1～3等級は足柄茶品評会最上位入賞レベルの評価で普通の茶園ではまず得られない等級、4等級の評価が出ればかなり高品質の生葉だそうです。

藤野茶業部の茶葉摘採は5月8日～15日で行われましたが、12日上岩茶園で摘採した生葉に4等級が付きまじりました。茶来末に搬送した全荒茶を佐々木社長に審査していただき、4等級の荒茶を新製品「特上煎茶」に仕上げました。高級感ある製品で佐々木社長から「特上煎茶は玉露を淹れるように飲んでください」とアドバイスいただき、お客様にお伝えしています。7月に行われた足柄茶品評会では出品数106で65位になりました。農業技術センターの先生からは「とてもよい荒茶ができましたね。来年は3位入賞目指しましょう！」と励ましの言葉をいただきました。佐野川茶の相模原ブランド構築、たくさんの方々に支えられ歩みを進めています。(写真2)

・夏の茶仕事

摘採作業が終わると更新剪枝と夏整枝です。6月3日農業技術センターの茶園巡回指導と藤野茶業部会が開催され、各茶園の更新や整枝をどのように行うか話し合いました。昨年から中切り・深刈り更新剪枝をして樹勢を回復させ新しい枝を増やす管理をしていますが、この夏も継続して取り組む事になりました。耕作放棄茶園を再生して藤野茶業部で管理している大洞茶園は農道をはさんで上側が景観保全に最低限の整枝をされた畑(道上)、下側が長らく管理されず荒廃した畑(道下)でした。2018年夏に道上を深刈り更新、道下を中切り更新して昨年より茶葉を収穫しています。2つの畑はほぼ同じ面積ですが、今年は明らかに道下の茶葉が質量ともに道上を上回っています。剪枝と整枝の違いや効果を実験したような結果に驚き、道上は中切り更新して1年間休ませる事にしました。4年前は密林のように荒れ放題だった道下の畑ですが、夏整枝作業後にたっぷり夏肥を施し元気な新芽が伸びています。除草作業もていねいに行っているため、美しい茶園になってきました。(写真3)

野良仕事以外の事ですが、藤野茶業部部長として会議に出席する仕事が多くなりました。山北町の県農協茶業センターで開催される足柄茶の茶業運営委員会、JA 神奈川つくい本店で開催される城山茶業部との茶業運営委員会や農林産部・畜産部臨組織代表者会議等、これまでお会いする事のなかった様々な役職者と同席しています。新規就農6年目の未熟者ですが、先輩農家の皆さんに藤野茶業部の取り

組みを伝えながら津久井地域の農業振興につながる仕事ができるよう精進します。



③



④

・第 44 回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会

会場飾花・献花用花卉栽培担当として 3 年目になりました。今年もアスター・ベニバナ・ヒマワリ・ヒャクニチソウを植え付けましたが、播種作業は茶園摘採作業の合間を縫って行っているため綱渡り状態です。4 月 22 日アスター 3 品種、23 日ベニバナ、5 月 7 日と 24 日ヒマワリ 2 品種、17 日ヒャクニチソウをプラグトレイに播種して自宅ベランダで育苗、随時花卉畑に定植していきました。併せて 5 月 27 日景観用ロシアヒマワリを直播して 7 月 31 日開催の追悼会に備えました。昨年より実行委員の吉田さんが花卉栽培担当に加わり、除草作業を受け持っています。今年もいよいよ株間の雑草を抜いてくださり、追肥に費やす時間ができたので 1 日化成肥料を施しました。7 月になって咲き始めた花は病気も発生せず色鮮やかで、重責を果たす事ができました。

今年は神奈川県朝鮮中高級学校フィールドワークが 7 月 20 日に行われ、献花用花卉にベニバナを入れました。若き日に学んだ山形県の鉱山で強制労働させられた朝鮮人戦時徴用工の過酷な体験を思い出しながら育てたベニバナ、民族学校の子どもたちに届ける事ができて良かったです。(写真④) 7 月 31 日の追悼会では前日・当日併せて約 800 本の花卉を収穫して、会場飾花と献花に使いました。コロナ禍で過去 2 年間献花のみの開催でしたが、今年はたくさんの関係者の努力によって会場内でのセレモニーとギャラリーでの展示・献花を実施する事ができました。当日は約 200 人の参列者があり、日本のアジア侵略の犠牲になった日本、韓国・朝鮮、中国人ダム建設殉職者の冥福を祈ってヒマワリ・ヒャクニチソウを手向けてくださいました。(写真⑤)



・雑穀街道普及会の活動

2018 年を最後に中断していた藤野での雑穀栽培講習会、第 8 回自給農耕ゼミ(佐野川)として 5 月 22 日上岩雑穀畑で再開しました。木俣師が講義と実習指導を行い、モチキビとモチアワを中心にヒエ・シコクビエ・オカボ・ハトムギ・アマランサス・モロコシを植え付けました。ロープを使い一直線に畝を立て、厚播きにならないよう注意しながら種子をばら播き覆土・踏圧しましたが、参加者の皆さん手慣れて作業に取り組んでいました。久しぶりに木俣師の講義も受けられて、とても実り多い講習会でした。(写真⑥)

上岩雑穀畑ではこれまで 6 月中旬以降にしか播種できなかったのですが、5 月中に播種した雑穀は追肥も施したので順調に生育し、キビは 7 月下旬に穂を出し始めました。第 9 回ゼミは 8 月 21 日開催で防雀ネット張りを行う予定でしたが、穂の登熟具合を考えると雀の襲撃を受けてしまいます。木俣師と相談し 8 月 6 日に実施する事にしました。急な日程変更でしたがフノサトメンバー 3 名が参加してくれました。佐野川は 4 日・5 日が雨天で支柱立てが出来なかったのですが 4 人で行う作業は効率がよく、2 人一組で鉄パイプの支柱を畝間に埋め込み重いネットを広げて張る作業は 2 時間程で終わらす事ができました。(写真⑦)



⑥



⑦

第 10 回ゼミは 9 月 4 日開催でキビを収穫する予定です。27 号でお伝えしたように今年収穫した雑穀は木俣師と来年発泡酒に仕込む準備をしています。醸造は和田にある Jazz Brewing Fujino の山口さんをお願いしており、先日は孫娘農園で栽培しているホップを収穫して届けました。右籠のホップがチヌークで山口さん推奨品種です。(写真⑧) 2023 年は国際雑穀年と母校学芸大創基 150 年、記念発泡酒原料の雑穀・ホップは自給農耕ゼミ(佐野川)が責任もって栽培します。上岩雑穀畑では雑穀だけでなく麦・大豆も栽培しておりゴエモン佐野川チームでの醤油仕込みもできるので、自給農耕ゼミ(佐野川)にご参加ください。

※佐野川での雑穀街道普及会活動に興味のある方は宮本携帯
(090-2205-8476)へご連絡
ください。



⑧



播種した雑穀の穂が徐々に出てきました。段々と収穫の秋に近づいていますね。来年（2023年）は東京学芸大学創設150年の節目に当たり、国連において国際雑穀年（International Year of Millets）とすることも宣言されています。この機会に、藤野の宮本さんの畑でキビとホップを栽培し「雑穀発泡酒クラフト」を醸造するための準備を進めています。（※東京学芸大学創立60周年記念（2009年）の時には、東京学芸大学雑穀発泡酒「Sobibo ピーボ」を醸造しました。）今後、販売（協力金）などの準備が整いましたらHP等でご案内しますので、ご賛同いただける方はご寄付を頂ければ幸いです。

植物と人々の博物館が中組地区へ移転してから約5年が経過し、収蔵・展示資料の今後の扱いについての議論を進めて来ました。この間にも書籍の寄贈などがあり、電子書籍などのコンテンツの充実も図っています。「雑穀街道」の中にこれまでの調査・研究の蓄積を保管することの意義と同時に、当博物館の特長の一つでもあった収蔵品の“活用される場”の創出をどのように進められるのか、資料等の一部移管も含めて様々な可能性を探っています。Google Map上での「植物と人々の博物館」（移転後）の閲覧数も50,000回を超えました。もし、何か今後に向けたアイデアなどございましたら是非お寄せ下さい。

「環境学習市民連合大学」の中での連携協力講座もオンラインだけでなく対面形式も取り入れて、広がりを見せています。環境学習会、自給農耕ゼミ（小金井、佐野川）の今後のスケジュールもHP上

（<http://www.ppmusee.org/index.html>）に公開していますので、ぜひご参加ください。話題提供者や企画案などがありましたらご相談ください。

<ご案内> 『第7回自給農耕ゼミ（小金井）』開催のお知らせ（一次案内）

市民農園や都市農業をもっと広げたい、小金井でエディブル・ウェイ（食べられる道）を作ってみよう、エコミュージアムなまちづくり、雑穀や野菜の在来品種についてもっと知りたい、どのように幸せな暮らしを築くのかなどなど、家族農耕 farming をゆったりと語りあう会です。これからも学習会や栽培実践、読書会などを通し、共に学び合う場を共有しましょう。お気軽にご参加ください。

○ 第7回自給農耕ゼミ（小金井）

○ 日時：9月25日（日）14:00～16:00

○ 場所：小金井市中町カエルハウスおよびカライイ（zoom）（定員：会場15名、カライイ20名）

○ プログラム：今回は、心の基盤を創る自然体験、生活体験について話し合いたいと思います。

話題：冒険遊び、野良遊び、プレーパーク

話者：邦永洋子さん（NPO 法人こがねい子ども遊パーク）

要旨：武蔵野公園のプレーパーク、南学童農園、小金井環境市民会議環境学習部会のたんぼの時間、東京学芸大学のちえのわ農学校、プレーパーク、自然文化誌研究会の冒険学校などをつなげ、人々と経験を交流します。

○ 協催：カエルハウス運営委員会、NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館／雑穀街道普及会

○ 申込み連絡先：042-316-1511（カエルハウス運営委員会）または

office@katayamakaoru.net 資料代 300 円

*このゼミの動画、話題資料などは、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、互いに体験と知識など学び合う環境学習市民連合大学の下記サイトで一般公開します。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

*内容についてのご質問は kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

○ 参加申込みをしてくださった方には詳細な案内をお伝えします。

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.9 その 7

【号外】インド・ウッタラーカンドからの報告

長濱和代（日本経済大学経営学部教員）

2022 年 8 月 9 日から、3 年ぶりにインド入りしています。今回の目的はヒマラヤ山麓の村落で 10 年ぶりの世帯調査を行うことです。面談調査と参与観察により、どのように森林利用と管理が変容したかを把握しようとしています。今回は『「黄昏の太宰府」便り』を変更して、インド・ウッタラーカンドからの報告をお届けします。

1. インド入りを決意する

2020 年からコロナ禍となり、インド行きをこの 2 年余り、躊躇してきました。特に 2020 年後半からインドでは爆発的にコロナ感染者が増加して、渡航禁止が出たほどに入国が困難な状況が続いていました。2022 年春になると渡航が緩和されたのですが、それでも今までのようにパスポートとビザだけでなく、ワクチン接種証明書と PCR 検査陰性証明書の提出によりインドへの渡航が可能となりました。日本では、今年（2022 年）夏にコロナ感染者数増加の第 7 波が到来したため、私は国や大学、或いは周囲から私の渡航を制限する圧力が現れるのではないかと不安と恐れを募らせていたのですが、結局、圧力はかからず、インドへの渡航が実現できることになりました。

このような状況の中で、インド渡航については、次の目的と強い思い入れがありました。第 1 に、修士論文を書くために初めて実施した調査が今夏にちょうど 10 年目を迎えること、第 2 には採択された科研費（基盤研究 C）が 2 年目に入りデータ収集を計画してきたこと、第 3 の理由を追加するなら、ともに院生時代を過ごしたインド人の友人がウッタラーカンドの私立大学で教員となり、講義の依頼を受けたことでした。それとは別に東京の私大で教員をしている南アジア研究者の友人から調査チーム組織編成の依頼があり、彼女が 10 年ぶりのインド行きを希望されていたことも、私のインドへの渡航を後押ししました。

家族は、いつものように私の渡航を諫める者は誰もおらず、むしろ夫は賛成の様子でしたが、実家の母は「日本ではコロナが広がっているのに、何故インドへ行くのか」と私のことを心配していました。私が日本で拡散している種のコロナウイルスをインドへ運ぶことにより現地でご迷惑をかけるのではないかという懸念だけでなく、インドではコロナウイルスはインフルエンザと同様の扱いをされているので、その渦中へ飛び込んでいく無謀な私への半ば諦めにも近い思いもあったようでしたが、インドへ送り出してくれました。

2. ニューデリー入りする

2019 年秋の渡航の際に私は 5 年のビザを取得していたことので、準備は比較的簡単に進みました。フライト前日に、地域の医療機関での PCR 検査でコロナ陰性証明書を取得することにより、日本から問題なく出国しました。ニューデリーのインディラガンジー空港での入国審査では顔見知りの審査官もいたので、空港では友人の入国審査のサポートもでき、3 年のブランクがあったとはいえ、インドへ毎年のように通ってきた経験が活かされたことを実感しました。

ニューデリーでは最初の通訳の家族や、道で迷った時に親切にもらった家族など、複数のホストファミリーがいます。とりわけ親しく、単身の時はいつも宿泊させてもらっている Verma 家からは、長男であるムケシとおつれあいのルビーが私たちを空港で迎えていただき、再会を喜びました。晩はムケシの長男のアーカッシュ（10 歳）がホテルに来てくれたので、彼の成長の様子から 3 年の年月の長さを実感しました。



写真 1 午前 6 時前のニューデリー駅

今回のツアーで同行した友人は同性で、かつ気持ちもわかり合うことができ、調査とはいえないいつもの女子会的な楽しい雰囲気があります。デリーに留まり調査を進める彼女と、翌日から北部へ移動する私とは別行動になるため、翌日以降は 1 人で探検にいくような冒険的側面を楽しむことになります。そんな価値観の共有と、今後の互いの研究調査の成功を祈念しつつ 10 日後にまたデリーで落ち合う計画の確認をして、デリーでの初日の晩を過ごしました。

3. ウッタラーカンド行きの列車に乗る

ムケシに予約してもらった鉄道のチケットを手に翌朝、午前 4 時半にタクシーでホテルを出発、5 時半前にはニューデリー駅に到着しました（写真 1）。タクシーを下りるとすぐに赤い服を着たポーターが近寄ってきて、荷物を持つのですが、高額な金額を要求されるのは遠慮したいので、その手を振り払い、「I don't need your Help.」と構内に入るまでに、親切に声をかけてくれた複数のポーターに同じ言葉を伝えました。

ウッタラーカンド行きの特急電車は、いつも入り口手前のホームの 16~18 番線から発車します。それでも発着ホームについては誰かに確認がしたくて、近くにいたインド人に尋ねると、彼は適当なことは答えず（自ら声をかけてくるインド人には注意が必要です）、スマホを取り出してすぐにオンラインサイトで検索を始めたのです。そして電車の番号「12071」をそのサイトにインプットをして、「18 番で大丈夫」と親切に教えてくれました。適当に答えるインド人も少なくないのですが、ネット検索から解を導く行動は、スマホの利用が生活に浸透していることを多に実感しました。

駅構内でのマスク着用者は 2 割程度で、複数のいすを使って横になっている人も少なくありません。「お金がほしい」「食べ物してほしい」と身振り手振りで訴えにくる女性たちが数名いたのですが、マスクを着用したまま PC に向かって仕事をしている私が反応しないので、諦めて去って行きました。構内ではこん棒を手にした男性らが常にパトロールをしていて、その後、誰かにしつこく言い寄られることもなく、ホームで 1 時間余りを過ごしました。

発車時刻の 30 分ほど前にホームに入ってきた電車は、いつも乗車している青い車両（写真 2）で、今年はさらに年季が入っているように見えました。どの車両に乗るのかを確認するためにインド鉄道（国鉄）の制服を着た職員にスマホの中に入ったチケットを見せると、彼は私のスマホを取り上げて（コロナ禍なのに、人の携帯を簡単に触らないでほしい！と思いました）別の若手職員に見せて、チケットに書かれた車両番号と座席を確認した後、親切にも私を座席まで案内してくれました。スーツケースを座席の上の荷物置き場へ上げてくれ、着席しようとしたところで、なんだか雰囲気がおかしい！と思った時に、チップを要求されたのです。鉄道の職員でも侮れません。チップは 10 ルピーでは足りなくて、50 ルピーで成立。インドでは国鉄職員もチップを必要とするようです。

私の座席の横には、既にノーマスクの 30 代の男性が着席していて、どこに行くのか何の目的で渡航するのか等あれこれ聞かれました。コロナ禍なので最初は会話をためらったのですが、6 時間余りの道中、いろいろな情報を伺うことになりました。



写真 2 ウッタラーカンド行きの特急電車

特にインドの鉄道の予約では、『MAKEMYTRIP.COM』のサイトから予約して支払いまでできるので便利とのことでした。鉄道も人に頼らずに自分でアレンジするのが良さそうです。

隣の彼は、到着駅のディラドーンでは出迎えなどあるのか聞いてくれたので、「自分でタクシーかオート（原動機付バイク）を拾うので少し不安」と答えると、前の座席の女性が私と同じ終着駅で下りることを確認した後「自

分は手前のハリドワールで下車するので、駅で降りたら彼女のタクシーを見つけてあげてほしい」と頼んでくれました。私も彼のように「世話を焼く」のが好きな性格ですが、見知らぬ私をお世話するその彼はさらに上を行くと、感心しました。こうしたインド人は少なくなく、私がインドを愛する要素の一つでもあります。ちなみに今回の会話はインド人同士ではヒンディー語で、自分を交えての会話は英語で、英語が通じるインド人が少なくないのはありがたいです。

車内では良くエアコンが効いていて、乗車直後は寒い程でしたが、駅に停車する度に冷房が止まって次第に気温が上がり、最終地点では蒸すほどの暑いほどでした。車内でのエアコンが止まると空気の移動がなくなるため、1 人でもコロナ感染者がいたら、多くの乗客が感染するだろうと思われました。

4. 州都のディラードンに入る

ディラードン市では、いつもは NGO のゲストハウスに宿泊してきましたが、今回は頼りにしてきたリーダーのアドハッシュ・コーシャル氏が前月に逝去されたので予約が難しくなり、さらにコロナ禍での衛生上の不安もあって、州森林局に近いビジネスホテルを Booking.com を利用して予約をしました。列車で同席した女性が、オートの運転手と金銭交渉をしてくれたのでホテルまでは 200 ルピー以上は支払う必要はないと言われていたのですが、予約したホテルに着くと、運転手と再び金銭交渉をすることになり、5 割増しの 300 ルピーを支払いました。こうした交渉はインドでは良くあることで、自分が元気な状態の時はこのやり取りは楽しいですが、忙しい時などは煩わしく感じることもあります。今回もそう感じたのは、年齢を経て自分の活力が低下しているせいなのかもしれません。

それでもホテルに到着すると外の通りの音がうるさくてガーデン側の部屋に変更、さらに 2 泊を 1 泊にする変更は難しいと渋るフロントと交渉して、ここでは値段を下げてもらうことに成功しました。

ウッタラーカンド州の森林局を訪問すると、マスクをしている人は誰もおらず、コロナ前と同様にあちこちの部署を訪れ、気軽に役人たちと話をすることができました。州森林統計を扱う部局では、「アルモウで入手したお菓子があから食べていきなさい」と進められ、森林パンチャーヤトを扱う部局では、「お茶はいかがですか。」とグリーンレモンティをご馳走になりました。州森林局から出されている『州森林統計』は毎年発行されてきたのですが 4 年前から更新がなく、この数年の間、ずっと気にかけてきたので尋ねたところ、「コロナの影響もあり刊行が遅

れていたが数ヶ月後には発行予定」であること、『森林パンチャーヤト規則』2005 年版から 2012 年の追加事項が付与されて新版(写真 3)が刊行されていること等がわかり、その冊子を頂くことができました。英語版の刊行についても待たれるところです。さらに『森林パンチャーヤト規則』2022 年版が準備されているとのことで、そこには「Biodiversity Management Committees(BMCs)」やグラム・パンチャーヤトとの協働についての記載などが盛り込ま

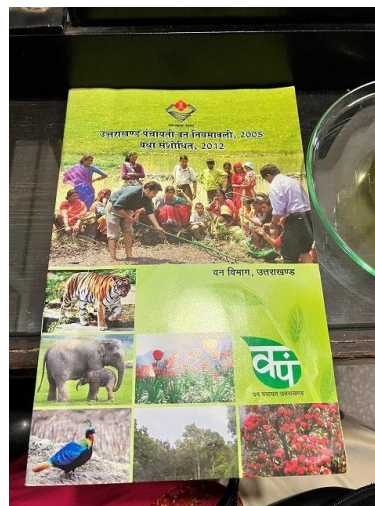


写真 3 ウッタラーカンド州森林局にて
森林パンチャーヤト担当の皆さんたちと(左)
最新の『森林パンチャーヤト規則』(右)

れるとの新情報まで聞き取ることができました。

10 年前にこの州森林局で森林パンチャーヤトを担当していた K 氏にも、その翌日にお会いしました。彼は森林局でより高いポストである DFO に昇進しておられ、私が博士となり、森林パンチャーヤトの研究により学位が取

得できたことを多いに喜んでくださりました。さらに彼の後任の PCCF や統計資料の英語訳の依頼ができる森林官を紹介いただきました。人を介してより知り合いが増え、ネットワークの構築により情報が集まり、次の調査に望むことができます。特にインドでは（カースト制度に代表されるように）組織がトップダウン式の構造になっているので、上級の役人との関係性の構築が、情報収集において有利に働く場合があります。

この当時、ちょうど私は修士の院生としてインドでの調査を始めていて、州森林局長に面会するために毎日（少なくとも 3 日間）森林局へ通っていました。この時に会った K 氏から、「自分がたいへん尊敬しているリーダーがいて、その村には 170 余りの村落を統括する森林パンチャーヤト長の R 氏がいる。彼は自分の地域で森林パンチャーヤトを組織して、ヒマラヤの森を守っている。彼の村に滞在して森林管理の自治組織パンチャーヤトの作り方やそのしくみを学んではどうか。」ということで、テーリーガルワール郡にある D 村を紹介いただき、世帯調査を始めたことが研究を続ける契機となりました。



写真 4 テーリーガルワール郡の村落

5. テーリーガルワールの山村に入る

今回の調査は、この D 村での滞在と 10 年ぶりの世帯調査を目的としています。事前に R 氏の親類でもある B 女史（結婚のために 9 月まで D 村に帰省中）に通訳を依頼していたので、ここでもまた K 氏自らが B 女史と連絡を取り合ってください、D 村への乗り合いジープを手配。コロナ禍ということで、2 人分の座席を確保していただきました。K 氏とは 2016 年に英語論文を共著で執筆したこともあり (Nagahama et al. 2016a)、今なお、私の現地での研究を支援してくださっています。

この時期はモンスーンの時期で雨が降りやすく、時には激しい雨と雷雨になることもあります。避暑地でもあるムッスーリまで一気にジープで上がると、暑さは消えて涼しさを感じられました。谷を越える時は、前日の雨により川が水で溢れ、ジープでないと渡れないほどで、道が崩れていて危険な場所もありましたが、無事に 5 時間の道のりを過ごして D 村に到着しました。B 女史とは 5 年ぶりの、R 氏とその家族らとは 3 年ぶりの再会に喜びました。

6. 聞き取り調査をはじめ

現在は D 村に滞在して、聞き取り調査と参与観察を始めています。10 年ぶりの世帯調査では、多くの世帯で高齢化が進み、家畜を手放す世帯が増えています。当時と異なるのは、すべての世帯でプロパンガスがあり、老人から子どもまで携帯電話（または iPhone やタブレットなど）持っていて、IT 化が進んだことです。それでも薪は使われているのが興味深いです。また R 氏からは、「Our Land is polluted!」という話があり、家畜の糞を発酵させて作ってきた堆肥から化学肥料に変わり、市場で購入した種子を利用するようになり、作物が育たなくなっています。10 年前よりも世帯数が増えている一方で、都市で仕事をしたり留学したり人口も増加しています。10 年前の調査結果の一部と研究の動機についての詳細は今年 8 月に刊行した著作にて（2022 環境探究学研究会）、この調査結果はまた論文にてまとめる予定ですので、ご期待ください。

【参考文献】

- Kazuyo Nagahama, Kaoru Saito, Misa Masuda, Masahiko Ota, Hem Gairola, Subodh Kumar Kala, Randeep Rakwal (2016) Forest Commons Use in India: A Case Study of Van Panchayat in the Himalayas Reveals People's Perception and Characteristics of Management Committee. Environment and Ecology Research 4(3) 128-139.
- 環境探究学研究会 (2022) 『学校教育の未来を切り拓く 探究学習のすべて—PC×R サイクルによる指導原理と評価法』合同出版 （[👉次のページに本の紹介を掲載しています！](#)）

<寄稿いただいている長濱和代さんが著されている本をご紹介します>

環境探究学研究会【編著】

学習指導要領の改訂により、「総合的な学習の時間」は「総合的な探究の時間」に変更となり、2022年度からは、「理数探究」「古典探究」などが新設されました。すぐに実践可能で、効果的な「探究学習のPC×Rサイクル」による指導方法は、システム化されており、生徒・児童にとっても理解しやすいものです。本書では、「探究学習のPC×Rサイクル」による探究学習の指導・評価のノウハウを実際の授業実践に即して解説。探究学習に関するモチベーションを向上させるコツも併せて紹介。

学校教育の未来を切り拓く 探究学習のすべて

PC×Rサイクルを用いた
指導原理と評価法



ピーター・フランクルさん
(数学者、大道芸人、タレント)
「母国ハンガリーにも
広めたい」



藤嶋 昭さん (化学者、東京理科大学
名誉教授、ノーベル賞候補)
「こんな授業受けて
みたかった」



編者

向雅生 福岡県立三池工業高等学校・教諭
長濱和代 日本経済大学経営学部・教授
五島朋子 東京大学地域未来社会連携研究機構・特任助教
佐藤真太郎 京都ノートルダム女子大学現代人間学部こども教育学科・講師
石田秀輝 環境探究学研究会、会長、東北大学、名誉教授

執筆者

(順不同)
水野克己 一般財団法人地域地盤環境研究所 (GRT)・特任研究員
今井将之 ダイエンスカフェえびしーじょう・代表
出口英二 福岡県立香住丘高等学校・教諭

齋藤寛幸 北海道立旭川西高等学校・教諭
遠藤金吾 秋田県立秋田高等学校・教諭
日野真吾 東京都立小石川中等教育学校・教諭
北岡侑城 福岡県立三池工業高等学校・教諭
小島直樹 安田学園中学校高等学校・教諭
岸本直子 早稲田附属高等学校・地歴公民科・常勤講師
坂入亮太 神奈川県横浜市立みなとみらい本町小学校・副校長
伊藤宗彦 東京福祉大学・専任助教
清水優子 東京都新島村立新島小学校・教諭
阪井園子 兵庫県神戸市立本庄小学校・教諭
青山英孝 愛知県小牧市立小牧南小学校・主幹教諭



合同出版

●B5判/200ページ
定価：本体2000円＋税

大好評発売中！

申
込
書

学校教育の未来を切り拓く
探究学習のすべて

環境探究学研究会【編著】

本体2000円＋税

ご送付先 〒

お電話

FAXまたは
e-mail

お名前

申込先 合同出版物流センター
〒335-0004 埼玉県蕨市中央 5-8-17 株式会社昇栄梱包内
TEL 048-291-9412 (平日 8:30 ~ 17:00) FAX 048-291-9414
godo-chumon@godo-shuppan.co.jp

冊

○ INCH まつり（ライブ）開催見合わせのお知らせ

秋の一大イベント「INCH 祭り（ライブ）」を開催予定で進めていましたが、感染状況などを踏まえて検討した結果、今年度の開催を見合わせることにしました。楽しみにしていただけたみなさん、すいません！！来年度に開催を目指していますのでよろしくお願いします。

（10/1-2 はスタッフ研修会を開催するかもしれません。）



○ 事務局の麗しき日々

- ・だにえる&のんちゃんは家を建てたもよう。
- ・日向くんは乗り物が大好きなもよう。
- ・雫さんは冒険学校後も中国語の勉強会のために小菅に通っているもよう。
- ・メイちゃんの小菅村で卒論を書くらしい。
- ・尚子も冒険学校のために台湾から駆け付けたもよう。
- ・はるちゃんの小菅村の物産館で働いているもよう。
- ・こそこの卒業後の進路は不明なもよう。
- ・だいりちゃん、今回は遅刻しなかったもよう。えらいぞ！？
- ・冒険学校に来ると佐伯さん直々にシシカバを焼いてもらえるもよう。
- ・峻太郎くんも教員になり、冒険学校に駆け付けたもよう。
- ・剣道合宿～冒険学校～剣道合宿（函館）の美鈴ちゃんの夏だったもよう。
- ・黒澤邸の隣に 1 杯 1,500 円の高級ラーメン屋がオープンしたもよう。

○ 事務局より

4 月より息子が小菅村保育所に通い始めました。同級生は 7 名、近年稀にみる多さとの事です。上の学年は 0 人、下の学年は 1 人なんですけども。保育所に感謝しながらも、土日祝日は子どもを自力で育てる我が家。GW のむらまつりキャンプ、7 月のスタッフ研修会につき迎えた夏のこすげ冒険学校。我が家は相談の結果、はるちゃんがスタッフでフル参加し、私は養魚場へ通いながら、事務局+子守りで後方支援に回りました。

コロナとは関係なく、自分自身にとっては新しい形での冒険学校となった 1 年でした。だにえる、みややん、風馬をはじめ運営を支えてくれる若きスタッフが居ること。バイトを休んで小菅に来てくれる学生のみなさん。ごみさん、緑さんをはじめベテランの方も加わってくれました。英雄さん、佐伯さん、雫さん、佐々木さんをはじめいつも本会を支えてくれる人たち、そんな人たちの姿を外から見つめると言うのは初めてであり、とてもとても新鮮でした。（黒）

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称 INCH（インチ）。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、40 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座（のびと研修会）』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年

額（1～12 月）です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正 会 員：10,000 円 一般会員：5,000 円

学生会員：3,000 円 賛助会員（個人・団体）：10,000 円

家族会員：6,000 円 準特別維持会員：50,000 円

特別維持会員：100,000 円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円

雑穀街道特別会員：1 口 1,000 円から

・成合基金（冒険栄栄基金）：「成合基金」とご記載してください。

・寄付：「寄付」とご記載してください。

①郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

②ゆうちょ銀行：店名 008 普通口座

口座番号 9479450

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマス 147号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌
＜発行日＞2022 年 8 月 31 日
＜編 集＞自然文化誌研究会 事務局
＜発 行＞特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

＜事務局＞〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2
TEL：0428-87-0165・090-3334-5328（事務局黒澤）
E-mail：npo-inch@wine.plala.or.jp
H P： <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>